



設置認可がおりました

右の記事は、10月1日の北國新聞朝刊のものです。

9月30日付で、金沢龍谷高等学校に中等部を開校することが、正式に認可されました。

◆金沢龍谷高中等部を認可
県は30日、学校教育法に基づき、金沢龍谷高中等部(金沢市)の設置を同日付で認可したと発表した。設置者は学校法人藤花学園(同)で、設置予定は2023年4月1日となっている。県によると、定員70人の2クラスで、中等部新設に伴い、金沢龍谷高の定員を1350人から960人に減らす計画という。

金沢龍谷高等学校中等部 教育活動の概要

龍谷総合学園「まごころある国際人」の育成
学園のネットワークを活かしたグローバルマインド&スキルの育成理念。ハイワイ短期語学留学支援。

学校法人 藤花学園 建学の精神
私教精神、とくに経験者のみならず「**報恩感謝**」の心を基盤として、高い知性と豊かな情操を養い、健康で有為な青年の育成を目指す。

重点1 異年齢集団による交流・学習活動を推進
・全教科で交流型の学習活動を日常的に実施
・総合的な学習(探究)の時間で中高合同グループ編成
・「龍谷ACT-Seminar」(仮称)にて合同で学習成果発表

重点2 工夫ある先取り型の教育課程を実施
・週32.5時間の授業を3年間で計369時間増
・3年前期で中学校履修課程を終えて高校の先取りへ
・多様な進路希望に最適化する文理・クラス分け
・中等部3年で「グローバル・コミュニケーション」の開設
・校内で豊かなフィールドワーク学習を実施
・総合的な学習の時間で外部人材を招いて多様な学びを

重点3 「まごころ・感謝」の授業を実施
・密着校ならではの情緒教育の基礎を培う3年間の学び
・道徳分野は全職員と学級担任が多彩な授業を実施

重点4 グローバルマインドとスキル教育で資質を磨く
・中等部3年では「グローバル・コミュニケーション」の授業
・中等部2年でハイワイ修学旅行、中3で英語圏の語学研修
・豊富な経験の中で「まごころある国際人」として成長

《高い志を共有し、学び続ける教師集団》
・実績抜群の教科指導のエキスパートによる丁寧な個別指導
・深い生徒理解のもとに家庭・地域・学校の連携体制の中で私学ならではの信念ある中学校教育を展開

《最先端のICT教育環境》
・最新の校内Wi-Fi (Wi-Fi 6) 環境、一人一台Chromebookを活用したICT教育
・クラウドファンディングとICT機器を活用して学びの個別最適化と中高連携を実現
・プロジェクト複数単位に対応した全質ホワイトボードデザインの未来教室

《無料学校バスで広域通学圏の実現》
・能美市から内灘町までの全沢近所を網羅する路線
・「静かな旅路中」に金沢市の環境により至速志水町から加賀市までの広域の通学圏を実現

海外の
龍谷大学・
生涯にわたる
金沢龍谷高
入学試験後
高校2年生
*大学進学

オーセンティックな6年間が、
未来を生き抜く力を育む。

出会い
居場所
目覚め

総合コース
70名

自身の多様な可能性への可能性をプロセス、
高校生とともに学ぶ活動や日本伝統文化部の活動を
行います。

重点5
オーセンティックな学びや地域人材とICT活用で実現
・総合的な学習の時間や各教科などで地域人材の活用
・オンラインで各分野の専門家から学生指導機会を創出

重点6
部活動は高校生とともに長期の視野から育成
・小学校から継続する各競技と学業との両立を支援

重点7
読書、茶道、華道、華曲を本物から学ぶ
・総合的な学習の時間と「日本伝統文化部」で実習

重点8
地域に貢献する学び舎をボランティア活動で実践
・ボランティア参加機会を創出し、地域への貢献主体として成長

これは昨年12月20日に石川県に提出した本校の『教育活動の概要』です。

これが、中等部の理念を、世に公開した第1号でした。あの日から数えて284日目。大きな節目を、迎えることができました。

心から感謝です。

歎異抄 第二条

皆さん方は、はるばる遠い関東の地、十余カ国の国境を越えて、生命の危険をかえりみず、この京都の地にわび住まいする私を訪ねてこられた。あなた方の志はどこにあるのか。ただ私から極楽に往生する方法を聞き出そうとするためでありましょう。ところが、残念なことには、私が念仏以外に何か別の極楽往生の方法を知っていて、またその方法が説かれている秘密な経典を知つていながら、わざとそれを隠している。その奥にあるものを知りたいとおつしやつてこまで訪ねてこられたとすれば、大変な間違いであります。もしそう思つていらつしやるなら、奈良にある興福寺や、叡山にある延暦寺をお尋ねなさるがよろしい。そこにはちゃんと学問をなされた偉い学者さんがおつしやつしやいますから、その人たちにお会いになつて、極楽往生の秘訣をよくよくお聞きなさるがよろしい。私はただ念仏すれば、阿弥陀様に助けられて必ず極楽往生ができるという、あの法然聖人のおつしやいましてお言葉をばか正直に信じている以外に、別の理由は何もないのであります。念仏をすれば、本当に極楽浄土に生まれる種をまくと云うことになるのでしょうか。それともそれはうそ偽りで、念仏すればかえつて地獄におちるという結果になるのでしょうか。残念ながらそういう事は私にはほとんど知つてはいないのであります。たとえ法然聖人がおつしやつたことがデータラメであり、私は法然聖人に騙されて念仏をしたため地獄におちたとしても、ちつとも後悔いたしはしません。といますのは、私が念仏以外の他の行を一生懸命勤めて、その結果仏になることができるような身でありながら、念仏をしたために地獄に落ちることになるならば、法然聖人に騙されたという後悔も起り得ましよう。しかし、私はそんな智恵も徳行もなく、念仏以外の他の行によつて仏になることなど期待できない身でありますから、念仏の行によつて仏になる、永遠に地獄にいるより仕方ないであります。「もしも阿弥陀様の衆生救済の願いが真実であるとするれば、そのことをあの『三部経』という経典で説いたお釈迦様の説法が間違えているはずはありませんが、もしもこのような『三部経』におけるお釈迦様の説法が間違つていなければ、それを正しく解釈した善導大師の注釈書が間違つていなければ、その善導大師の注釈によつて正しく念仏の教えが説かれた法然聖人の言葉が偽りであると言つて正しく解釈した善導大師の注釈書が間違つていなければ、その善導大師の注釈によつて正しく念仏の教えが説かれた法然聖人の教えが正しかったならば、私があなた方に申しました念仏往生の教えもどうして間違つていまいしょうか。私の信心はただそれだけ、その他には何もないのであります。だから皆さん、以上の私の言葉をしっかりと聞き、自分でお決めることとなります。